

教育研修センター通信

Vol. 4

平成26年7月7日
発行：教育研修センター

研修医からひとこと

研修医 一年次 鈴木 大介

みなさん、こんにちは！研修医1年目でありながら36歳の鈴木大介です。私は歯科医師からの転職です。一度は諦めた医師となることができ、早3ヶ月が経ちました。本当にあってという間の3ヶ月でした。4・5月は外科で研修させて頂き、指導医である小関先生には大変お世話になりました。憩いの広場で先生と過ごした時間はいい思い出です。6・7月は循環器内科で研修中ですが、指導医の山口先生は、小関先生と同じく最高の先生です。私も先生たちのような医師になりたいという一心で、日々の研修に勤しんでおります。

研修生活は忙しく毎日充実してはいますが、息抜きも必要です。私のリフレッシュ方法は、家族と過ごすことです。日々の研修生活を支えてくれる妻、可愛い2歳の息子、元気な2匹のチワワ、すべて宝物です。病院スタッフ、家族、みんなに支えられていることを忘れずに、2年間の研修を有意義なものにしたいと思えます。これからも宜しくお願ひ致します。



研修医 一年次 鈴木 悠史

4月から始まったこの生活は学校で学んできた事と大違いで、毎日毎日新しい体験に胸を踊らせています。学生時代、実習での自分の存在価値は0、むしろスペースを取る分マイナスでした。しかしようやく、少しずつ成長できていく事を日々実感しております。呼吸器内科、外科と研修し、当直では救急外来にて見守られながらこの3ヶ月で多くの得難い経験をさせて頂きました。一日が過ぎ去っていくのが本当に早く充実した生活を送れているなと思えます。大体2ヶ月程度でローテーションしている科が変わり、全く別の領域を学ぶ事になります。約60日という限られた時間を本当に大切にしたいと思っております。そして、まだまだ学生に毛が生えた程度に任せて頂いている部分があるという事、そしてそれを容認して頂いているこの環境に感謝し、日々その期待に応えられるように努力していく次第です。

臨床実習感想

浜松医科大学 6年 志田龍太郎

大学の臨床実習の一貫として5月26日、6月20日まで皮膚科と消化器内科を回らせて頂きました。皮膚科では外来、処置回診、手術など皮膚科医が現場で行っている仕事を1日付き添って見ることで、外来から処置に至るまでの流れや、どのような疾患・処置が多いのか知りました。また、実際に抜糸や縫合などの手技をやらせて頂ける機会も有り、見学だけでは得られない臨場感を持って取り組むことが出来ました。消化器内科では午前カンファレンス、病棟患者の回診などを通して患者さんの訴えや病態を把握し、午後は内視鏡室で検査や治療を見学しました。実際に内視鏡シミュレーションを体験することが出来たので、内視鏡の奥ぶかさを感じることが出来ました。夜は何回か先生方が飲み会に連れて行って下さり、そこで実際の医療現場の話や聞き取りで医師になるモチベーションがより高まりました。お世話になりました。先生方、ご指導有難うございました。



医学生病院見学 30名超える！

5月以降の医学生見学者は31名です。指導医の先生方においてはご多忙の中、医学生を快く引き受けていただき感謝いたします。また、研修医の先生方は日中の学生指導に加え、時間外のお誘いもありがとうございます。「先輩研修医と本音のトークができて良かった。」との感想も多数いただいています。

特に6年生は、医師としてスタートを切る初期臨床研修病院を選ぶ最終段階であり、当院が医学生からも選ばれる病院になるよう今後も研修指導内容やプログラムの充実を図っていきたいと思えます。

救急専門医 医学講座

7月4日（金）藤田保健衛生大学救命救急医学講座の武山直志教授を招聘し、講演会を開催しました。

研修医をはじめ、指導医や救急看護士など50名を超える職員が聴講しました。研修医にとって、救急の現場は研鑽を積む一番の場でもあります。2年間の初期研修で、研修の理念・基本方針が達成できるよう、研修医個々も不断の努力を怠りません。

今後、指導医、指導者（看護師長等）の優しく、厳しいご指導をお願いします。

